

科目名	生涯学習論特講	担当者	コガ 古賀 トオル 徹	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>「生涯学習論特講」では、生涯学習社会（時代）を迎えたといわれる現代社会において、「教育」（学習）をどのようにとらえ、展開していくことができるのか。現代社会において、様々な問題解決のために必要とされる専門的知識や基礎理論とはどのようなものであるか。以上の問題について考え深めていくことを目的としています。そのために次のような順序で学びます。①生涯学習時代の現在において「新しい学力観」として注目を集める「主体的学び」の概念および新しい学習方法を理解する。②生涯学習の現場を取材（フィールド調査）し報告する形式で、経験的な学びを加えることでより深く理解する。③ヴィゴツキーの基本的な考え方を学び、④彼の「学習」概念が現在にどのように影響しているのかを理解する。①～④によって生涯学習の現在、過去、未来について理解を深めていただきたい。</p>		
到達目標	<p>① 学習や生涯学習に関する様々な議論を整理し、理論として知るだけでなく“現実の社会”の中での事象を把握し対応できる力をつける。 ② 言語の発達やツール（道具）としての知識について理解を深め、「学習」を関係性で把握することで自身の学習力や他者への学習構成力を伸ばす。</p>		
学修方法	<p>テキストや文献類を多く読むことで「良い文章」と拙文を見分ける力をつけ、「良い論文の書き方」を修得できるようになる。特に論文作成に進むとき、先行研究としての細かな論文を読むときにこの力が役立つ。図書館や専門機関では分類された専門書を集中してみるのに便利である。取材先の機関にも図書スペースがあれば所蔵状況等を確認されたい。「学習」という言葉が使われることになってきたのも、“周囲”（背景）の様々な変化が表れている。そういう背景（周辺）についても広く学んでいただきたい。なかなか困難な自学をすすめている自身の状況自体も「生涯学習」の一つの姿であると考え、客観的考察と主観とを（自身の内で）ぶつけていくことで「考察」を深めていただきたい。メールやmanaba folio 上での質問も受け付けている。</p>		
スケジュール	<p>レポートは前期（9月）・後期（1月）と提出期限が設定されている。締切前であればmanaba folio 上の添付で往復をする。期限を超えた場合、メールで往復をしたい。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100 %	課題レポートを重視する。教材1(1)については教材の理解度を評価する。(2)については報告書の具体性を評価する。教材2については、主張される内容（理論）の理解度で評価する。課題未提出の場合は評価を行わない。
	平常評価	%	
履修者への要望	<p>前提として、どのような「教育」、「学習」がいま求められているのか、これまではどのようなものが求められてきたのかという教育観・学習観を理解しておいていただきたい。「教育とはこういうものだ」と誰もが漠然と語ることはできるが、その教育実践を生み出した理論や歴史を深く知っておくことで、その議論は“漠然”としたものではなく深まっていく。教材で扱うレフ・ヴィゴツキーについて、その人物像や概要を調べておき、そういった理解（先入見）をもって教材に向かっていていただきたい。「発達」「教育」「教授」「学習」といった言葉の意味を調べ、文字に分解しての語義や、翻訳前の原語、あるいはさらなる他国言語での表現などを調べていくなど、自らの興味を深める活動、知識の幅を広げる活動をしていただきたい。そういった活動自体が「学習」や「発達」と重なってくると考えている。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 田中雅文・坂口緑・柴田彩千子・宮地孝宜 教材名： 『テキスト生涯学習（新訂版）』（学文社，2015年） ISBN:978-4-7620-2492-4 1,700円+税
	この教材は、「生涯学習」について基礎から学ぶ人のためにと編まれたテキストであり、大学講義レベルでの内容となっている。その意味では、やや初歩的な内容となっているが、本講義で構想する「学校教育と生涯学習とをネットワーク的に理解する教育的な視点」という学びのためには十分に意義がある。前半は生涯学習の概要や一般理論、その後は学校や社会教育実践との関連という、より抽象的、より実践的な内容となっている。この教材の「構成」自体が本講義のねらいと合致するので、より広い学びのために読み進めていただきたい。
参考図書	麻生誠・堀薫夫『生涯学習と自己実現』（放送大学教育振興会，2002年） ISBN:978-4-59-511360-4 主体的学び研究所 編『主体的学び』創刊号（東信堂，2014年）ISBN:978-4-79-891230-1
履修上のポイント	レポート課題(1)では、教材の内容をよく読み、いま求められる「学び」（学習）とはどういうものであるのかについて理解を深めること。参考図書にあげたもの以外でも入門書的なものを選択して読み、比較考察するとさらに学び深めることができる。 レポート課題(2)では、「書いてあること」の実践をみることで再確認と、実践をみることで感じとることのできる課題（解決すべき問題点）を意識してもらうことをねらいとしている。
レポート課題 1	教材の第3章・第4章において主張される生涯学習の内容・方法、および学校教育との関連について考え、特にキャリア教育や「生きる力」が求められるようになった学校教育（学習観・学力観）と、それに対して「生涯学習」という個人の学びがもつ意味についてまとめなさい。それは何が問題であるとして必要と考えられているのか。また「学習で身につける」ということに関する自分の考え（コメント）も記してください。 留意点： 教材の論述内容をよく読んで、学習者の習得する力をどうとらえようとしているのか、著者の主張・示唆をまとめること。
レポート課題 2	実際の「生涯学習」の場（博物館・美術館・生涯学習センター・市民活動支援センター等）を訪ねて、そこでどのようなことが目指され、何を求めて参加者が集まり、どのような学習が行なわれているか等、見てきたことを報告してください。 留意点： ここでの活動は、「実践の場」を取材することでフィールド調査やインタビュー調査の方法を習得することを目的としています（取材場所は一か所でも複数でもよい）。
基本教材 2	
教材の概要	著者名： ヴィゴツキー（柴田義松・宮坂瑠子 訳） 教材名： 『教育心理学講義』（新読書社，2005年） ISBN:978-4-78-804118-9 3,000円+税
	ヴィゴツキーは「学習」と「発達」について論じた教育心理学者で、現在の“活動主義”の学習観にも大きく影響を及ぼしている（PISA型学力や新学習指導要領の思考力重視路線等）。その多くは学校教育を対象とする論述であるが、知識を（個人で）主体的に獲得していくことや集団での経験を通じて得ていくという（彼の）「学習」観は生涯学習の領域からも注目されている。この教材はヴィゴツキー自身の論文集（講義ノート）であるが、大学院生レベルで教育学を学ぶのに適している。
参考図書	柴田義松『ヴィゴツキー入門』（子どもの未来社 寺子屋新書，2006年） ISBN:978-4-90-133060-2 800円+税 神谷栄司『未完のヴィゴツキー理論－甦る心理学のスピノザー』（三学出版，2010年） ISBN:978-4-90-352050-6 3,200円+税
履修上のポイント	専門性の高い教材のため、『ヴィゴツキー入門』や各種の辞典を読んでおくことから始めると理解しやすいかと思う。課題(1)のねらいは、「学習」（教育）のとらえなおしがいつの時代にも行なわれてきたということ、ヴィゴツキーの主張の基本的立場をおさえておくということである。近年は「ヴィゴツキー・ルネッサンス」ともいわれている。 課題(2)では、「生涯学習」という言葉（名称・表現）にも含まれている「学習」という概念が、なぜ（いま）求められるのかということを考えていただきたい。
レポート課題 1	教材の第1～2章（12～39 ページ）は、ヴィゴツキーが当時までの教育学・心理学をどのように評価し、どのような課題意識をもっていたのかが記されている。読みとったことを概説し、“現在”において自分が感じていること、考えることという「自分の立場」からのコメントも加えてください。 留意点： 教材のなかで指定した範囲自体は膨大ではないが、他の部分にも何度も“従来の研究”に関する疑問視は示されている。課題に則していれば他の参考文献類から学んだものを示してもよい。
レポート課題 2	第6章「記憶と想像」（110～137 ページ）に記されていることは、「受動的教育」と「主体的学習」のちがいともいえる。現在必要とされている「学習観」とはどういうものか。あなたの考えを述べてください。 留意点： 「いきる力」「自己学習力」「PISA型学力」「総合的思考力」「多角的思考」等、現在の教育改革であげられているスローガンにも注目していただきたい。

科目名	生涯学習論特講	担当者	オガサワラ 小笠原 ヒロヤス 喜 康	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	-----------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>この授業では、前期では生涯学習の意味と必要性、そして現状の課題を理解する事を目的とし、後期は社会教育施設の一つである博物館を研究して、生涯学習についてより具体的に考えていただくことを目的としている。</p> <p>今日の知識産業時代においては、生涯学習はこれまでのように年寄りのものではもちろんない。それは誰にとっても必要な人生の生き方そのものである。他方、学校教育もこの時代において見直されなくてはならない。その一つに、博物館が関わってくる。そうした新たな動きについて理解することがこの授業の目的である。</p>		
到達目標	<p>この授業では、生涯学習や博物館教育を理解することは当然であるが、それよりもこれからの社会における学習とは何かという問題を自分なりに考えることが到達目標となる。知識産業時代と持続可能社会に向けて、私たちはどのようにあるべきか。人口100億になるのも時間の問題である今日、このことは、喫緊の課題である。そうした問題について自分なりに考えるようになることが到達目標であるので、そのつもりで学習してもらいたい。</p>		
学修方法	<p>テキストは、前期は概論的で、後期は博物館に特化している。したがって、この両方をただ読むだけでなく、この問題について研究する姿勢で進めてもらいたい。そのためには、CiNiiを使って関連論文を収集することも重要である。</p> <p>その関連論文を収集するときには、テキストで直接扱ってなくても、前述の知識産業時代の問題、そして持続可能社会の問題にも関心を寄せてもらいたい。そうした重層的な研究を進めていく場合、課題のレポートにおいて、これに直接答えなくても構わない。</p>		
スケジュール	<p>前期は、提出は9月であるが、課題1・2とも、必ず草稿をだすようにしてほしい。したがって、課題1の草稿は、6月いっぱい、課題2の草稿は8月一杯にだしてもらいたい。これは評価に関わるので注意してもらいたい。</p> <p>後期は、最終章と自分に関心のあるところを良く読んで、その上で課題の草稿を書いてもらいたい。これも草稿をだすように。課題1の草稿は、11月いっぱい、課題に2については、12月中に草稿をだしてもらいたい。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	50 %	テキストの理解ができているかどうか。そしてそれに基づいて、自分の言葉で書かれているかどうか。
	平常評価	50 %	草稿をだしているかどうか。
履修者への要望	<p>履修に当たっては、計画をたてて勉強するのはもちろんだが、文献にあたることと、自分の言葉で書く事を心がけていただきたい。文献は、CiNiiで手に入るものでかまわないので、関係するものを10編以上集めること。課題の提出においては、その集めたものを引用参考にすることが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 赤尾勝己 教材名： 『生涯学習理論を学ぶ人のために—欧米の成人教育理論，生涯学習の理論と方法』 （世界思想社，2004年）ISBN:978-4-79-071065-3 1,900円+税
	生涯学習は，今日もっとも重視される分野であるが，この書は，欧米の代表的な成人教育の学習理論を平易に紹介している。これからの社会における成人教育のあり方を考えるときの，必須の理論の全体像を知るには好適な一書。
参考図書	鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと—とまれ・生涯学習の・ススメ』（学文社，2006年） ISMN:978-4-76-201618-9 1,400円+税
履修上のポイント	生涯学習は，これからの社会において，若いも若きも極めて重要な課題となっている。とりわけ学校教育の行き詰まりが指摘されるようになり，その問題性も明確になってきている今日，この問題を考える上で重要である。そこで単に，生涯学習について学ぶというだけではなく，学校教育を問い直すという視点でも研究していただきたい。
レポート課題 1	この本に紹介されている理論の一つを取り上げて，その概要とそれに対する自分の考えをのべてください。その際，自分の知っている具体例をあげてください。
レポート課題 2	教材の本で扱っている学習理論の一つを取り上げて，自分の考える成人教育プログラムを構想してください。プログラム名，目的，実施対象，実施時期，実施場所，具体的な実施手順などを考えてください。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 小笠原喜康；Children's Museum 研究会編 教材名： 『博物館の学びをつくりだす』(ぎょうせい, 2006年) ISBN:978-4-32-407889-1 1,905円+税
	博物館教育に特化して具体例を基に考えている日本で最初の本です。各種の博物館の実践例を反省的に論じている章と，博学連携，ワークシートデザイン，そして博物館教育の今日的意義について論じている。
参考図書	梅棹忠夫『メディアとしての博物館』（平凡社，1987年）ISBN:978-4-58-273805-6 1,947円+税
履修上のポイント	博物館教育に教科書があるわけではありません。自由な学びをする場所です。とはいえ，それにはどうしたらいいのでしょうか。教科書がない分，その指導は必ずしも簡単ではありません。学習者の興味をサポートするにはどうすべきなのかを現実的に考えてみましょう。
レポート課題 1	他に配布される論文も含めて読んで，博物館教育のこれからの可能性について考えて下さい。
レポート課題 2	実際にどこかの博物館・水族館・動物園・美術館などを訪れて，その館の教育がどのようにおこなわれているか調査して報告してください。